

あいなんちょう いせき 愛南町の遺跡 - 6 -

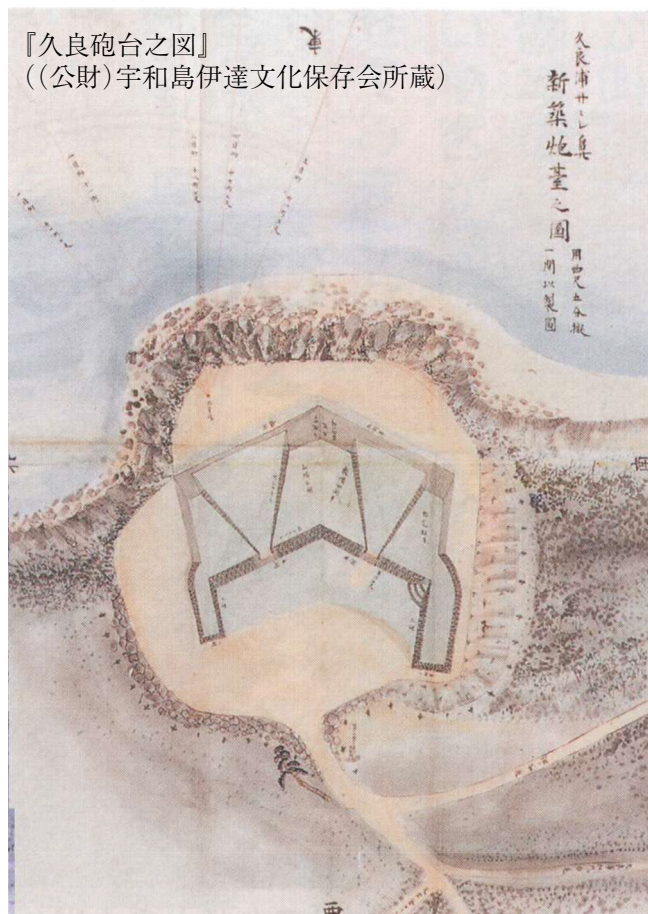
平成30年1月

愛南町教育委員会

たかのちょうえいちくぞう だいばあと 高野長英築造の台場跡

「高野長英築造の台場跡」は、^{ひさよし てんぎばな しょざい}久良の天巖鼻に所在する江戸時代の^{えどじだい}終わり頃に^お作られた^{ころ}砲台跡で、かつては『久良砲台』と呼ばれていました。^{たいへいようせんそう しゅうりよう}太平洋戦争が終了してから^{ねんご}5年後の、^{しょうわ}昭和25（1950）年^{ねん}10月^{がつ}10日^かに愛媛県の^{えひめけん}史跡として^{しせき}指定されています。

この砲台が^{ほうだい}建設されたのは、アメリカから^{くろふね}黒船が^{らいこう}来航した^{かえい}嘉永6（1853）年の^{ねん}3年前の、^{まへ}嘉永3（1850）年の^{しだい}ことで、時代の^{なが}流れに^{さきが}先駆けた^{しせつ}施設であったと^い言えます。



この頃の日本各地の沿岸には、ロシアなどの外国の船が近づくようになり、^{かいがん}海岸の^{そく}測量をしたり、^{りょう}湾の^{わん}深さを^{ふか}測ったりするようになりました。このため、^{うみ}海に^{めん}面した^{しはいち}支配地を^も持つ大名は、^{だいみょう}海岸を^{かいがん}護るために^{まも}備えをする^{そな}必要に^{ひつよう}迫られていました。^{せま}東京の名所の一つ^{とうきょう}になっている「^{だいば}お台場」も、その頃に^{ころ}徳川幕府が^{とくがわぼくふ}築いた^{きづ}品川砲台に^{しながわほうだい}由来します。^{ゆらい}

宇和島伊達家もその類に漏れず、賢君として知られる8代藩主伊達宗城は、外国のことに通じた学者として著名だった高野長英を宇和島に招き、外国語で書かれた本を日本語に訳させたり、兵学の研究に取り組みせたりした他、執筆活動などを行わせました。これらの活動の一つとして、この台場の設計があります。

しかし高野長英は、台場が完成するより前の嘉永2（1849）年に宇和島を去りました。その翌年の秋、江戸で幕府に逆らった罪で捕らえられ、その時に亡くなっています。



『久良砲台試撃之図』((公財)宇和島伊達文化保存会所蔵)

この砲台については、試し撃ちの結果、10発中9発が標的近くに命中したという記録があり、極めて優秀な性能を持っていたことが分かっています。



この砲台には、砲弾や火薬を保管した施設が別があり、その石塁が愛南町の史跡「天巖の砲台場石塁」として指定されています。いずれも大切に保護し、活用しながら未来の世代に継承していければと考えています。

文化財の保護にご理解とご協力をお願いします！

文化財は、壊されてしまうと元に戻すのが極めて難しいものです。皆様のお住いの地域にどのような文化財があるかについては、教育委員会生涯学習課までお問い合わせください。…お問い合わせは、生涯学習課（電話0895-73-1112）まで。